

2024年12月16日

報道関係各位

東北大学学生ユニオン

## 東北大学の国際卓越研究大学採択に伴う

### 博士課程学生への支援打ち切りについて

東北大学の学生有志で組織する「東北大学学生ユニオン」は、東北大学の国際卓越研究大学認定に伴い博士課程学生への支援が縮小される件について、12月1日、国立大学法人東北大学（総長：富永 悌二）と文部科学省に対して添付の公開質問状を提出いたしましたので、お知らせいたします。

報道機関 お問い合わせ窓口

「東北大学学生ユニオン」

連絡先： [stu.union.tohoku@gmail.com](mailto:stu.union.tohoku@gmail.com)

ホームページ： [https://x.com/tohoku\\_st\\_union](https://x.com/tohoku_st_union)

2024年12月16日

国立大学法人東北大学 御中

東北大学学生ユニオン

## 東北大学の国際卓越研究大学採択に伴う

### 博士課程学生への支援打ち切りについての公開質問状

下記の事項について公開質問状を提出いたしますので、2025年1月15日までにご回答  
いただくようよろしくお願いいたします。

#### 記

国立大学法人東北大学（以下「東北大」）は2024年11月8日をもって国際卓越研究大学に認定されました。報道によれば今年度中に100億円程度の助成を得ることが出来るのですが、その一方で博士課程に在籍する学生にとっては不安となる報道も一部見られます。

その内容といたしましては、JSTから東北大を經由して研究費や生活費を年間1人あたり290万円の支援を受けている博士課程の学生が900人弱いるこの東北大において、国際卓越研究大学に認定されたことによって、それらの支援が全て打ち切られてしまうというものです。特に「次世代研究者挑戦的研究プログラム(以下「SPRING事業」)」「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業(以下「フェロシップ事業」)」の2つによる東北大への助成額は約21億円という報道<sup>1</sup>もあり、国際卓越研究大学による100億円の助成のうちから教職員などの人件費に充てるとされている大半の金額を除いて、同規模の博士課程への支援が継続されるのかという部分について不安を感じている学生が多くいます。

つきましては、以下3点を質問とさせていただきます。

- ① 2023年度の東北大においてSPRING事業・フェロシップ事業によって東北大が博士課程学生に対して支給している総額、ならびに支給対象の学生数
- ② 来年度以降SPRING事業・フェロシップ事業による支援が打ち切られた際に現在、これらの事業を元に支援を受けている学生への支援は同規模の支援が継続されるのか
- ③ 来年度以降に東北大の博士課程に進学する学生に対しても、現在の規模（博士課程の学生1/3の人数・同規模の額）での支援が継続されるのか

以上

---

<sup>1</sup> ZAITEN 12月号「国内トップレベル大学の『破壊』が本格化へ」

2024年12月16日

文部科学省 御中

東北大学学生ユニオン

## 東北大学の国際卓越研究大学採択に伴う

### 博士課程学生への支援打ち切りについての公開質問状

下記の事項について公開質問状を提出いたしますので、2025年1月15日までにご回答  
いただくようよろしくお願いいたします。

#### 記

国立大学法人東北大学（以下「東北大」）は2024年11月8日をもって国際卓越研究大学に認定されました。報道によれば今年度中に100億円程度の助成を得ることが出来るとのことですが、その一方で博士課程に在籍する学生にとっては不安となる報道も一部見られます。

その内容といたしましては、JSTから東北大を經由して研究費や生活費を年間1人あたり290万円の支援を受けている博士課程の学生が900人弱いるこの東北大において、国際卓越研究大学に認定されたことによって、それらの支援が全て打ち切られてしまうというものです。特に「次世代研究者挑戦的研究プログラム(以下「SPRING事業」)」「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業（以下「フェロシップ事業」）」の2つによる大学への助成額は約21億円という報道もあり、国際卓越研究大学による100億円の助成のうちから教職員などの人件費に充てるとされている大半の金額を除いて、同規模の博士課程への支援が継続されるのかという部分について不安を感じている学生が多くいます。

つきましては、以下2点を質問とさせていただきます。

- ① 国策として博士後期課程に進学する学生を増やそうとし、国際卓越研究大学に採択された大学においてもそのイメージとして「授業料が免除され、生活費の支給も受け、思う存分、研究しながら、博士号を取得可能」という一方で、多くの博士後期課程の生活の基盤となるSPRING事業・フェロシップ事業を打ち切るという一見矛盾したようにみえる制度設計をなすに至った経緯
- ② 国際卓越研究大学認定後の認定大学において上記事業を原資として生活・研究支援を受けている博士課程の学生が大学から今後の方針についての説明がなく、生活に不安を感じざるを得ない状況に対しての受け止め

以上